

# 自宅における終末期を迎えた方の支援

金ヶ崎町訪問看護ステーション

高橋 嬢子

## 在宅終末期ケアの特徴

- 在宅で終末期を向かえる人は、がんだけでなく、生活機能が低下しての、老衰や肺炎、心疾患などで亡くなる高齢者である
- 在宅では医療者ではなく家族が24時間介護をしていることが多く、不慣れな医療処置や管理を行っている
- 家族は「いつも何となく違う」という感覚や、頻回に訪問する看護師の判断が重要になる
- 療養者と家族の間のコミュニケーションへの支援も重要である

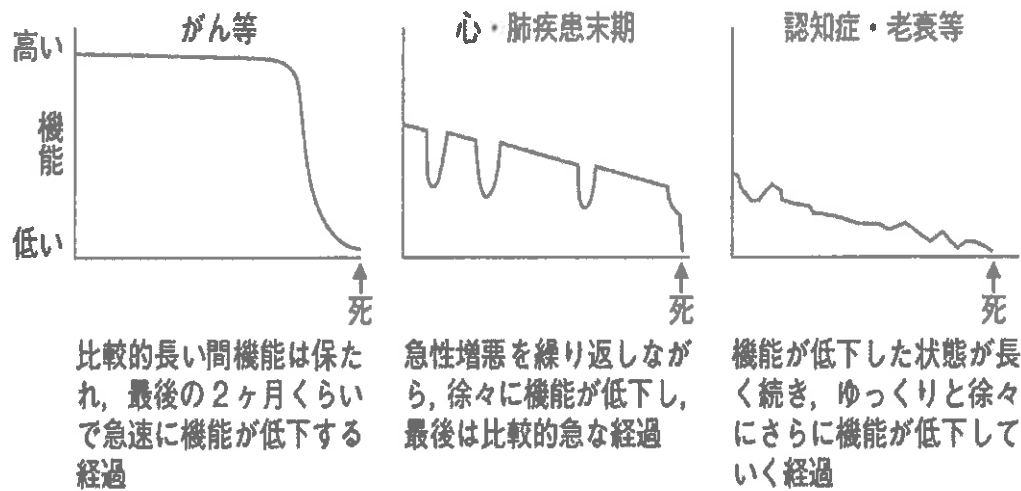


図1 死にいたるまでの経過

Lynn J. Serving patients who may die soon and their families. JAMA. 2001; 285: 925-32. (篠田知子, 訳. Medical Asahi. 2006; 80-1)

## 在宅終末期ケアの条件

- 療養者本人と家族が在宅での看取りを希望していること
- 痛みやその他の苦痛症状のコントロールが可能であること
- 家族、その他の介護力の環境が整っていること
- 主治医の往診及び訪問看護師の24時間対応体制が整っており、いつでも必要なケアが受けられること

# 看取りが近いと判断してから行うケア

- これからの療養場所の最終確認
- 家族ケア

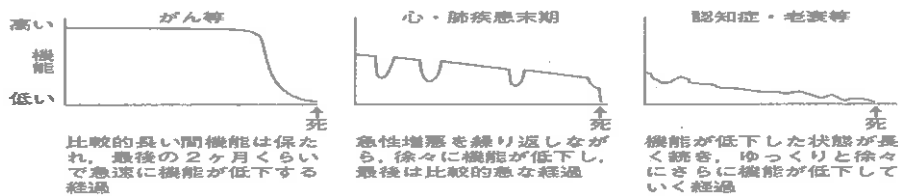


図1 死にいたるまでの経過

Lynn J. Serving patients who may die soon and their families. JAMA. 2001; 285: 925-32. (篠田知子, 訳. Medical Asahi. 2006; 80-1)

徐々に飲食できなくなる(これは自然の経過)

家族の思い

「何とかして食べさせたい」「点滴は？」

「飲食させない」 = 「何もしてあげられない」

## 家族への具体的支援

- 今の病状の説明
  - 今後考えられる症状変化の説明
  - 家族としてできることの説明
  - 看護師を呼ぶタイミング
  - 困ったことがあればいつでも電話相談や緊急訪問の保障
  - 死後のケアについて
- ↓
- パンフレットを用いて説明
  - 説明が死の準備教育になる

## 看取り後の対応

- 死後のケアの家族の参加
- 宗教への配慮
  
- ケアマネジャーへの連絡

## 遺された家族への支援

- 死別後の悲嘆の経過  
死別前から始まり、心の大きな悲しみを経て自然に治癒に向かう  
悲嘆はショック期が1～2週間、その後、死者への思いにとらわれる段階が1～6か月ほど続き解決へと向かう  
(悲嘆の経過には個人的要因が影響)
  
- 悲嘆状況の確認